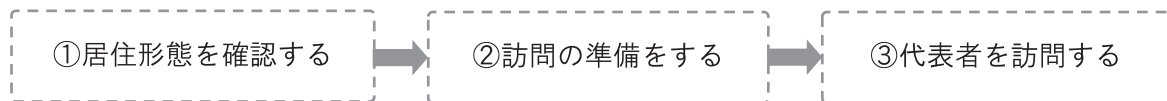


Ⅱ 章 - 自治会等への加入を促進しよう

【入居開始後の集合住宅】

開発前に業者を通じて加入を呼びかけても、全戸加入に至らず入居が始まった場合、家主や管理組合、管理会社などの代表者に新たに取りまとめを依頼することになります。集合住宅こそ日ごろの協力や助け合いが大切であることから全戸加入を促しましょう。



①居住形態を確認する

居住形態の違いで依頼する代表者が異なるので、訪問する集合住宅が賃貸か分譲かを確認しましょう。



②訪問の準備をする

◆資料の準備

自治会等への理解を得られる資料の準備が必要です。

準備するもの（例）P. 10 参照

あいさつ文（例）P. 32 参照

◆訪問時期

入居開始後、出来るだけ早く、代表者と話し合いの場を持ちましょう。

分譲で管理組合や管理会社の連絡先がわからない時は、管理人に確認しましょう。

◆訪問人数

役員複数名で訪問し、組織的に取り組みましょう。

③代表者を訪問する

◆賃貸の場合

賃貸住宅は入退去が多く、地域や自治会等への関心が希薄になりがちです。家主に自治会等の意義や利点をしっかり伝え、入居者に加入を促してもらいましょう。

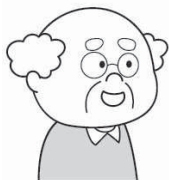
管理会社に委託している場合は、管理会社にも意義や利点を伝え、加入の取りまとめを依頼しましょう。

入退去が多い賃貸マンションは、自治会費を減額するかわりに、管理会社に一括納付してもらうよう依頼しています。



◆分譲の場合

施設内の掲示板などを活用させてもらい、案内チラシで自治会等の周知を図ります。



広報紙を持参したり、日ごろから管理人と関係を深め、管理組合の会合で加入の案内をする機会をもらえるよう、依頼するようにしています。

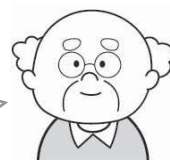
以前から未加入の集合住宅

以前から未加入の集合住宅には、何らかの理由がある場合が多く、訪問する前にこれまでの事情を知っている人（管理人や管理会社等）に聞くなど、状況を把握しておく必要があります。

◆自治会加入について住人の合意があった場合

管理組合の総会で自治会等に参加しないと決議している場合、訪問する時期が重要になってきます。機会をみて依頼することで自治会等への加入がうまくいった例もあります。

以前から未加入の分譲マンションには、管理組合の理事長が交替する時に加入のお願いに行きました。
対応が変わり、自治会加入の合意を取り付けてもらえました。



◆自治会等について話し合ったことがない場合

これまで話し合いがなかったり、家主や管理会社に働きかけをしたことがない場合には、自治会等の存在を知らないこともあるので、自治会等の案内から始めましょう。

全戸加入に至らなかった場合は、個々の世帯に戸別訪問します。

【訪問】P. 10～13 参照

知 恵 袋

自治会等と管理組合の違い

自治会等と管理組合は、構成員や目的が異なります。違いを理解した上で自治会等の必要性を説明し、加入を促しましょう。

	結成、加入	構成員	目的
自治会等	住民みんなの話し合いで結成 加入：任意	居住者	居住者同士の親睦、地域活動の向上
管理組合	法律で結成を定められている 加入：必須	区分所有者 (非居住者を含む)	共有財産の維持管理